

「原発で『市民の安全安心確保』の基準はなにか」との指摘も

5月15・17の両日、高田、直江津、大潟、三和の各区で、議会主催の「議会報告会・意見交換会」が行われました。

議会改革の一環として、2008年11月から行われ、今年度からは意見交換会のみで開催と併せて、2年で28区すべてで開催することになっています。

大潟区

○大規模店舗が次々に進出してきているが、規制はできないのか。
○原発の件で意見書を探したがる、その後の検証はどうなっているのか。

高田区

○(仮称)厚生産業会館基本構想に関する諮問で、市が途中で「構想そのものは是非ではなく、施設の影響等への影響を諮問している」としたのはおかしいのではないか。
○排水設備設置への助成制度は、接続済みの人への補助はない。接続済みの人にもメリットのある方法を考えてほしい。
○合併後9年目になるのに、公民館の活動に差があるのは問題だ。もっと早く是正すべきだった。議会も頑張らしてほしい。



厚生常任委員会の報告をする平良木議員

「議会は決めたことの検証を」

議会報告会・意見交換会で市民から率直な意見

今回は予算が上程された3月議会の審議の模様を中心に報告され、参加した市民のみなさんから率直な意見をいただきました。残念ながら、参加者が少なく、高田区の女性サポートセンターでは、スタッフの方が多いような状況でしたが、増税や放射能の影響など、市民生活上の切実な意見が寄せられました。

高田区

○これから人口は減り、高齢化がますます進むが、安易に箱物に合併特例債を使うと、その返済や維持費がたいへんになるのではないか。
○高田区の中心市街地対策の施設が、他の区に比べて多いのではないかと。作るだけでなく、廃止も必要ではないか。
○復興のためと称して市民税の均等割額を増税することは、法律の趣旨に合わないのではないかと。

直江津区

○「こどもの家」や介護施設をどうして民間に譲渡するのか。道州制の先取りではないか。
○付帯決議をあげた件では、その後の執行について、しっかりと検証すべきだ。

三和区

○公の施設の再配置では、対象になつていない施設に、地元からも出資しているものがある。廃止ではなく、観光ルートの一つとしていかせるよう充実させてほしい。
○「こどもの家」の地元への譲渡では、町内会の法人化や移転登記を条件にしているようだが、実態として法人化が困難な町内もある。議会でもそうした実態を把握し、それぞれの地域の条件に合わせた対応をしてほしい。

三和区

○観光では、上越経由で佐渡に行くという観測だが、旧市街地にされるような仕掛けや、三和を含めた周辺部への誘客政策のPRが必要。
○集落センターを第一次避難所にするということだが耐震の整備がされていない。予算も限られている。どうしてか。
○高齢化が進み、町内によつては役員のみ手がない。何か良い方法はないか。
○中心市街地の活性化を考えているようだが、周辺部の活性化こそ必要。周辺部の活性化、利便性を考えてほしい。
○消防団員が少ない。OBなどの活用ができる方を考えてほしい。

原爆の烈火 ありありと表現

上越9条の会 発足8周年 記念の集いで神田香織さん 講談「はだしのゲン」

5月18日、リージョンプラザで行われた「上越9条の会発足8周年記念の集い」では、講談師神田香織さんの講談「はだしのゲン」が上演されました。



上演に先立って、福島県いわき市出身の神田香織さん自身が、福島県の状況を、講談の語り口を交えて報告し、いまだに深い傷跡が癒えない地元の実態と、政府や東京電力の無為無策ぶりを暴露しました。

「はだしのゲン」は、照明による演出も加えられ、真に迫った語りで、原爆投下のその悲惨さだけでなく、「戦争反対」を訴えたゲンの父が弾圧されたり、子どもたちがいじめられたりしたことも語られ、戦争の恐ろしさが実感できる公演でした。

参加した平良木議員は、「原爆も原発も、人とは共存できない危険なもの。完全になくしたい」と語りました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.365 2013年5月26日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)